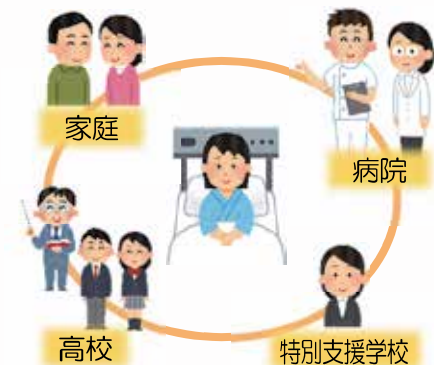


# 病気療養中の高校生に対する指導・支援の充実に向けて

県教育委員会では、障害の有無に関わらず、全ての生徒が自信を育むとともに相互に支え合う関係を構築し、本来持っている力を最大限に発揮することができるよう、安心感を高める指導・支援の充実に取り組んでいます。

病気療養中の生徒に対しても、生徒の安心感を高められるよう、保護者や医療関係者等と連携し、継続してきめ細かな指導・支援を行うことが必要です。



長期入院を要するなど病気療養中の生徒は、病気や治療の不安に加え、学習や友達関係等の様々な不安を抱えています。例えば、それまでできていたことができなくなり落ち込んでしまったり、誰にも相談できずに一人で悩みを抱え込んでしまったりすることも考えられます。

そこで、治療の状況等を踏まえ、生徒に寄り添い希望を確認しながら、学習や学級の生徒との交流の機会を確保する中で、生徒の安心感を高められるよう指導・支援を行うことが重要です。そうすることで、生徒は自信を育み友達と支え合う関係を築くことができ、それが治療の原動力にもつながります。

## 入院する生徒への指導・支援の流れ

### 入院時

- ① 状況等の把握 \*保護者を介して把握
  - ・病状、治療の状況、入院期間、学習可能時期
  - ・病院において実施可能な学習内容や方法
  - ・本人・保護者の希望 等
- ② 校内委員会による支援内容（入院中）の検討
- ③ 支援内容に関する本人・保護者との合意形成
- ④ 個別の教育支援計画の作成

### 入院中

#### 個別の教育支援計画を活用した指導・支援

##### <学習指導>

- ① 各教科・特別活動等の学習計画一覧の作成
- ② 指導・支援の実施
- ③ 評価

##### <生徒指導・進路指導等>

- 随時、教育相談等を実施



### 退院時

- ① 状況等の把握 \*必要に応じて主治医等との情報交換を実施
  - ・病状、治療の状況、自宅療養期間
  - ・復帰後の学校生活における配慮事項
  - ・本人・保護者の希望 等
- ② 校内委員会による支援内容（自宅療養中・学校復帰後）の検討
- ③ 支援内容に関する本人・保護者との合意形成
- ④ 個別の教育支援計画の見直し

### 卒業時

- 卒業後の支援が必要と考えられる場合は、進路先への引継ぎを実施  
\*本人・保護者の意思を確認した上で実施

# 高等学校による指導・支援

## 学習指導

## 生徒指導・進路指導等

### 遠隔授業

<配信側>

<受信側>



各教科や特別活動等の配信

### 対面授業



訪問による指導

### 自主学習の支援



プリント等の  
課題提供

### 教育相談等



訪問やオンライン  
による面談等

【参考：高等学校段階の病気療養中等の生徒に対する遠隔教育の要件緩和】

- 単位修得数等の上限の緩和〔メディアを利用して行う授業による単位修得数の上限（36単位）に関して〕  
「病気療養中等の生徒の教育機会を確保する観点から、上限を超える単位修得等を認める」  
（令和2年4月学校教育法施行規則改正）

## 特別支援学校のセンター的機能による支援の活用

病弱特別支援学校が専門性を生かし、高校の教員や入院中の生徒に対して助言・援助を行います。

### 自治医科大学附属病院・獨協医科大学病院に入院する場合

- 岡本特別支援学校おおるり分教室（自治医科大学附属病院内）
- 栃木特別支援学校ひばり分教室（獨協医科大学病院内）

生徒の身近にいる分教室の教員が、学習に係るサポートを行います。

- 生徒への課題の受渡し、実施後の課題の回収・送付
- 自主学習時の学習の場（分教室）の提供、学習の見守り
- 遠隔授業に係る機器の貸出、機器不具合時の対応
- 退院時情報交換会に係る日程の調整、出席者への連絡等

### その他の病院に入院する場合等

（左記に加え）

- 岡本特別支援学校本校
- 足利特別支援学校

病気の生徒に対する指導・支援について教員への助言を行います。

- 病状等に応じた指導・支援
- 遠隔授業の具体的実施方法等

今日は初めての対面授業でした。自主学習で分からなかったところも先生の解説を聞いて分かりました！明日の数学もとても楽しみ。今から予習をします！！（その後、机に向かって早速勉強を開始しました。）

対面授業を  
受けたAさん



遠隔授業が始まってから先生や友達とのやりとりが増え、Bの気持ちが落ち着いてきたように感じます。最近では進路のことも話しています。先のことにも少しは目を向けられるようになったのかなと思います。

Bさんの保護者



家庭科の実習の様子が配信されたので、Cさんは皆と同じ場所で一緒に作品を制作しているような気持ちで取り組むことができました。放課後の時間帯にも、友達と作品を見せ合い、称賛し合う姿が見られました。

Cさんの支援を担当  
している分教室の教員



Dさんはにこにこしながら「クラスマッチのTシャツが届きました！」と教えてくれました。分教室での自主学習でも、一緒に学習する高校生や先生にTシャツを披露していました。病室でも着用している姿を見かけました。

Dさんの入院する  
病棟の看護師



生徒が、自信を育み、友達と支え合う関係を築くことができます

